

第34回

一日舞踊大学講座 2016

ダンスと教育

現代舞踊協会研究企画部では、未来の文化を担う次世代の若者に視点を繋ぎます

◎ワークショップとデモンストレーション

「まず見ることからはじめてみる」小野寺修二

◎シンポジウム

「舞踊、マイム、演劇の境界を超えて」舞踊の演劇性／演劇の身体性

小野寺修二 立木燐子 范旅 加藤みや子

◎文化庁新進芸術家海外研修員による帰朝報告



小野寺修二と
ともに
マルチメディア・
ダンス／
フィジカル
シアターの
魅力を探り、
体験する

演出家の
眼を借りて、
新たなダンスの
可能性を見つけよう。
ダンス／
パフォーマンスアーツの
交差点とは？

今、
小野寺修二が
アツイ！

2016 2.13 [土]

9時50分～17時00分 (9時20分より受付)

日本大学芸術学部江古田校舎

(北棟第5実習室、北棟第6実習室、小ホール)

西武池袋線各駅停車にて江古田駅下車、北口より徒歩1分



コトバ、カラダ、ダンスの作品世界、それは、時間と空間のせめぎ合いの中で、虚構の世界でありながら、カラダという真実があるから、ウソにならない。日常と非日常の間に、超越したリアリズムの先に、もうひとつの真実が見え隠れする。言葉の内包する身体性を分解して再構築する、小野寺の創る作品は、窒息しそうな緊張感と、ナイフのように鋭い風刺と、思わずくすっと笑ってしまうようなユーモアとで、観客を魅了する。そんな小野寺修二の世界から、私たち舞踊家が表現者として学ぶべき何かが見つかるような気がする。もちろん舞踊家でない人も、「演じる」って何か、ヒントが得られるだろう。ろうあ学校の生徒たちとのワークショップから生まれた『鑑賞者』という作品を2015年11月にニューヨーク公演し、大成功を納めた。アウトリーチの活動から、商業演劇の世界まで、幅広く活躍、今、注目される演出家／振付家、小野寺修二に学ぶ。



小野寺修二 Shuji Onodera (演出家)

演出家。カンパニーデラシネラ主宰。2015年度文化庁文化交流使。日本マ임研究所にてマ임을学ぶ。95年～6年、パフォーマンスシアター水と油にて活動。その後文化庁新進芸術家海外留学制度研修員として1年間フランスに滞在。帰国後カンパニーデラシネラを立ち上げる。作品はマ임の動きをベースに台詞を取り入れた独自の演出で、世代を超えた観客層の注目を集めている。主な作品として『カラマゾフの兄弟』（12年新国立劇場）、『変身』（14年静岡芸術劇場）等。また、瀬戸内国際芸術祭2013にて屋外劇『人魚姫』、犬島パフォーマンス公演『URA-SHIMA』（15年犬島精錬所美術館他）など、劇場内にとどまらないパフォーマンスにも積極的に取り組んでいる。近年は音楽劇や演劇などで振付・ステージングの担当も行う。第18回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞受賞。

10:00～12:20 北棟第6実習室

ワークショップとデモンストレーション

まず見ることからはじめてみる 講師：小野寺修二

12:20～13:00 北棟第6実習室

帰朝報告 報告者：木場裕紀 坂田 守 長谷川まいこ

14:00～15:30 北棟第5実習室

シンポジウム

舞踊、マ임、演劇の境界を超えて

舞踊の演劇性／演劇の身体性

講師：小野寺修二 立木燐子 范 旅 加藤みや子

15:30～16:45 小ホール

参加者によるクリエイション、デモンストレーション

2016 2.13 [土]

9時50分～17時00分 (9時20分より受付)

日本大学藝術学部江古田校舎

(北棟第5実習室・北棟第6実習室・小ホール)

参加費…… 一般 4000円 協会員 3500円 学生3000円
学生協会員 2500円 (日大生に特典あり)

定員70名 (定員になり次第メ切) 受講料は当日お支払い下さい。

主催：(一社)現代舞踊協会 協賛：日本大学藝術学部演劇学科
企画・制作：研究企画部 (正田千鶴、加藤みや子、中村しんじ／馬場ひかり、藤井 香、時田ひとし)

協力：松永雅彦

●申込方法

Webからのお申し込みは、現代舞踊協会ホームページ内「一日舞踊大学講座」の申込フォームより送信ください。

現代舞踊協会 検索

FAXからのお申し込みは、下記申込用紙に全項目を読みやすい文字で明記の上、下記FAX番号へ送信ください。

FAX 03-5457-7732

●申込締切 2月6日 (土)

●お問い合わせ (一社)現代舞踊協会事務局 TEL.03-5457-7731
〒150-0021 渋谷区恵比寿西1-21-3 グレイス代官山402号



立木燐子 Akiko Tachiki (舞踊評論家)

慶應義塾大学、米国ウェスタンミシガン大学卒業。1980年代より舞台芸術に関する評論活動を継続的かつ、国際的に展開。読売新聞、Dance Art、シアターアーツなどに寄稿。中国、フランス、ブルガリアなどの世界会議等で講演、講師、パネリストを務める。また、フランスのリヨン・ダンス・ピエンナーレ、モンペリエ・ダンス・フェスティバルなどを継続的に取材、ダンス・マガジン他で発表している。著書に、『現代ドイツのパフォーミングアーツ』(共著)、『北欧の舞台芸術』(舞踊監修・編者一國共同制作)などがある。



范 旅 Fan Lu (日本大学藝術学部教授)

日本大学藝術学部演劇学科教授。洋舞コース担当。1984年中国北京舞踊学院卒業。同年、広東省歌舞劇院専任教師に就任。1988年来日。1995年日本大学大学院芸術研究科舞台芸術専攻修士課程修得。1999年同学部専任教員に就任、現在に至る。論文執筆と研究発表は、『舞踊教育と教育舞踊』『フィジカルシアターの理論探究と創作実験』など多数、国内外の機関誌に掲載。また創作作品は、肉体表演演劇『蛛網』、創作舞踊『エンのメッセージ』など多数上演。



加藤みや子 Miyako Kato (舞踊家)

加藤みや子ダンススペース主宰。森嘉子、藤井公、利子に師事。仏・パニコレコンテ、伯・巡回公演(国際交流基金主催事業)、米・フェスティバル巡回等に招聘され高く評価される。83年よりアネックス仙川ファクトリーを拠点に各地で五感を開くワークショップやアーティスト交流の場、HHWを開催。現代舞踊協会常務理事。日本大学藝術学部非常勤講師。



坂田 守 Mamoru Sakata (舞踊家)

Tarinof dance company 主宰。能美健志、軽部裕美、柳瀬真澄、田中洋子に師事。イギリスのロンドンのLABAN CENTER (Trinity Laban Conservatoire of Music and Dance) ISP修了。数々の全国舞踊コンクールで第一位受賞。現代舞踊協会新人賞、奨励賞受賞。平成24年度文化庁在外研修員(フランス、パリ)。2014年長谷川まいこ共同制作した『Nisya』は、ヨーロッパ各国の国際振付コンクールに参加し3度優勝。



長谷川まいこ Maiko Hasegawa (舞踊家)

Trinof dance company 主宰。4歳よりクラシックバレエを学び、ローザンヌ国際コンクールに出場。20歳の頃にコンテンポラリーダンスに転身。2009年埼玉全国舞踊コンクールで第一位を受賞。同年、自身のプロジェクトカンパニー「m」を立ち上げる。平成25年度文化庁在外研修員。フランス、パリで2年研修。2014年坂田守と共同制作した『Nisya』は、ヨーロッパ各国の国際振付コンクールに参加し3度優勝。



木場裕紀 Hiroki Koba (舞踊家)

鹿児島県出身。東京大学大学院教育学研究科博士課程在学。日米のダンス教育の歴史研究を行うほか、アーティストとしても継続的に活動中。MACOBA Dance Company 共同代表。2013年9月から1年間、文化庁新進芸術家海外研修員としてアメリカ・ウィスコンシン大学マディソン校にてダンス留学。ハワイ、マディソン(アメリカ)、クアラルンプール(マレーシア)、シンガポールで作品を発表。

一日舞踊大学講座申込書

フリガナ

氏名

住所 〒

*「舞踊指導者認定」申込の方は右に○をして下さい。
*ダンスプラン出演者の方は右に○をして下さい。

認定申込

ダンスプラン出演者

所属研究所／舞踊団

(○をお付け下さい)

一般／協会員／学生・高校生／学生・高校生協会員

TEL

FAX

E-mail

*携帯でも可ですが、諸連絡の都合上、できるだけパソコンのアドレスをご記入下さい。